

課全部ヲ履修セシムルハ教授上ノ効果ニ於テ遺憾ノ点尠カラザル  
 ニ今又作業科ヲ増設センカ 到底師範科所期ノ目的ヲ達セザルガ  
 故更ニ一年延長シテ授業科目ノ充実ト師範教育ノ実績ヲ擧ゲシメ  
 ントス

女子共學ニ関スル件

近時女子普通教育ノ発達ニ伴ヒ高等女學校卒業者ニシテ本校ニ入  
 學ヲ希望スル向逐年増加スルノ傾向ニ在リ 然ルニ本校ハ法令上  
 女子ヲ入學セシムルコトヲ得ス 故ニコノ趨勢ニ應ジ高等女學校  
 卒業者並ニコレト同等以上ノ學力ヲ有スルモノヲ入學セシムルノ  
 途ヲ拓カンコトヲ要請セントス

雜件

生徒実験ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタル  
 モノノ中重ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

依頼製作一覽

品目	数量	受託年度	竣工年度	依頼者
御紋章付銀製香爐	壹個	昭和七年度	昭和七年度	宮内省
鷹ノ置物	壹個	同	同	小松謙次郎
メンデホル	壹個	同	同	帝國學士院
記念賞牌	同	同	同	農林省
銀製花盛器	貳個	同	同	同
同上	貳個	同	同	同
同製花瓶	貳對	同	同	東京府内務部長
胸像	四個	同	同	産業組合中央會
參基	同	同	同	同

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹  
 學校近事〔三〇—八〕<sup>卷号</sup> S・七・三・一〇<sup>年月日</sup>

○職員辭令

昭和七年一月廿五日

除服出仕

雇 利部房太郎

同 年二月一日

書記 增井 兼吉

給一級俸 依願免本官 文部省

同 年二月三日

教授 久米桂一郎

賜二級俸 文部省 依願免本官 内閣

教授 大島勝次郎

八級俸下賜 文部省 依願免本官 内閣

同 年同月六日

教授 島田 佳矣

教員檢定委員會臨時委員被免 内閣

同 年同月十八日

教授 鈴木 信一

助教授 松田 義之

講師 岡田 起作

教員檢定委員會臨時委員被仰付 内閣

○久米〔桂一郎〕教授 今年六十七齡の老境に達せられたるに拘は

學校近事 (三二—一。S・七・四・一八)

らず愈々健康にして元氣に満ち居られたるが今回文部省部内の行政整理を機とし後進者の進路を開く意味にて勇退せられたり 同教授は明治廿九年四月本校講師を囑託されしを首途とし同三十一年八月教授に陞任して今日まで勤続され實に三十有五年の長年月本校に盡瘁せられ本校首席勅任教授として校の内外より敬重せられたる方故その引退は寔に惜まるゝ所なり

○大島〔勝次郎〕教授 同教授も久米教授と同様の理由にて今回引退されたり 同教授は久米教授に比して尙數歳を超過する高齡なり 最初に本校に奉職されしは明治廿三年にして本校創立二三年後に係る 廿九年迄勤続して一たび本校を去り七八年を隔てたる卅七年九月より再び本校に復歸して講師となり大正七年十二月本校教授に陞りて今日に至る 勤続二十七年餘前を通じては三十二年に及ぶべし 同教授は蠟型の大家として久しく聲譽を馳せ現下殆んど比肩者なき名匠たり

○増井〔兼吉〕書記 亦同じく今回の整理を機として引退されたり 同氏は明治三十二年八月より本校に奉職され同四十年三月に書記に任官し教務掛を命ぜられ庶務掛をも兼務されて今日まで勤続されたり 其間實に三十二年を算すべし 恪勤精勵此の長年月を経過して終始渝らず執務亦用意周到寔に模範的事務家と稱すべきなり 同氏は日露戰役の際軍籍にありしを以て召集出征し二年餘に涉り朝鮮守備隊に屬し經理事務を執り陸軍一等計手として歸還し其功に依り勳七等を授けられ居り其後前記の如く多年判任文官たる勳勞として近く勳六等に陞叙せらるべし

○職員辭令

昭和七年二月十五日

敍正三位

敍從三位

敍從五位

敍正六位

同 年三月一日

任東京美術學校教授

同 年三月十五日

(各通)

依願解雇

同 年三月二十六日

依願解雇

同 年三月三十日

學術研究ノ爲朝鮮へ出張ヲ命ス

但往復共二十五日間ノ事

講 師 羽下 修三

講 師 合田 清

教務囑託 中川萬次郎

雇 渡部千次郎

元教授 大島勝次郎

元教授 久米桂一郎

元教授 平福 貞藏

助教授 海野 清

名古屋醫科大學學生主事

佐々木 章

兼名古屋醫科大學事務官

任東京美術學校生徒主事 紋高等官三等 内閣 五級俸下賜 文部省

四級俸下賜 文部省 依願免本官並兼官 内閣 生徒主事 兼教授 鈴木 信一

同 年三月三十一日

學校長 正木 直彦

依願免本官 内閣

文部省専門學務局長 赤間 信義

東京美術學校長事務取扱ヲ命ス 文部省

○正木〔直彦〕學校長 昨年十一月帝國美術院長を仰付られし處當

學校長としては既に三十年間も在職されたるに付き機會を待ちて勇退されたき決意ある様推測せしが今回遂に學校長を引退され今後は美術院長として一般美術界の爲めに盡瘁せらるゝことゝなれり

同學校長は明治三十四年八月文部視學官より本校々長に榮轉され爾來當校に於ける教育方針を確立し且つ校友會長として本校卒業生を指導開發して社會的活動に力を與へ又教課の參考資料として多からざる經濟の中にて種々の美術工藝品を鑑識蒐集せられ

其蒐集品中には天下の逸品尠からず已に國寶に指定されたるものもありて今や當校の鑑藏は世界に喧傳せらるゝに至れり 又同學校長は校務の外に博覽會展覽會等の審査委員長或は幹事長となり殊に文展開設以來は幹事として美術行政上に盡瘁され更に帝國美術院附屬美術研究所の設置せらるゝや其の主事となり其の功績校舉に違あらず専門學校長として勤續三十餘年正三位勳一等に陞られ

今や其の徳望と學識は美術界の最高峰として瞻望せらる 加ふるに近時愈々健康にして本校は勇退せらるると雖も前校長として美術關係上屢々學校に見える筈なり

○合田〔清〕講師 今年七十一齡の老境に達せられたるに就き今回文部省部内の行政整理を機として勇退されたり 同講師は明治二十九年七月本校の佛語授業を囑託され同三十三年には巴里萬國博覽會出品聯合協會委員として佛國に渡航教育部主任として各部を監督し同三十四年三月よりは再び本校の講師を囑託され以降勤續三十有一年の長年月本校の佛語授業の爲めに盡瘁されたる方故其の引退は寔に惜まるゝ所なり

○鈴木〔信一〕教授 同教授は生徒主事として又教務主任の職をも帯び初め大正五年三月本校講師を囑託されしより勤續十有六年の間本校に盡瘁されたるが今回の行政整理に際して自ら進んで勇退され今後は再び單に講師として用器畫授業を擔任せらるゝことゝなれり

正木前學校長並に赤間學校長事務取扱の

職員一同に對する挨拶

今回正木學校長引退され後任は一時學校長事務取扱として文部省赤間〔信義〕専門學務局長就任され四月一日午後一時校内職員一同に對して夫々挨拶ありたり 同時に赤間學校長事務取扱より新任の佐々木生徒主事の紹介あり後鈴木前生徒主事は引退の挨拶を述べられたり

第四十一回卒業證書授與式

三月二十四日午前十時より本校大講堂に於て第四十一回卒業證書授與式を舉行す。第一號鐘にて新卒業生式場著席、第二號鐘にて職員及び參列舊卒業生著席、第三號鐘にて文部大臣代理督學官石井忠純氏其の他來賓著席、學校長の式辭に始まり、卒業證書並に卒業成績優秀者に賞品を授與し、尋いで學校長の告辭、文部大臣の訓辭、卒業生總代の答辭あり、式終了後、來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次に退場。職員及び新卒業生は玄關前にて記念撮影をなす。

〔文部大臣鳩山一郎祝辭および卒業生總代藤森松兵衛答辭省略〕  
〔卒業成績優秀者賞与省略。卷末表參照〕

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一二	〇	〇	一二
西洋畫科	三六	〇	七	四三
彫刻科	一二	一三	〇	二五
建築科	九	〇	〇	九
圖案科	一四	〇	〇	一四
金工科	一	二	〇	三
鑄造科	二	〇	〇	二
鑄造科	六	〇	〇	六
漆工科	三	〇	〇	三
圖畫師範科	二二	〇	〇	二二
合計	一二二	一七	七	一四六

卒業生姓名及卒業製作目録(席次イロハ順)  
日本畫科

晚秋山徑	本科	岩城 照夫(宮城)
冬 徑	同	花岡 勇二(島根)
名園舞妓	同	林谷 乙治(石川)
鹿敷の湯宿	同	大岩 德(千葉)
水のほとり	同	高橋 博(長野)
晚秋の山ぐに	同	中西 一郎(岡山)
天城初冬	同	長嶺 雅男(愛知)
叢	同	藤森松兵衛(長野)
夕かげ	同	伏石 繁男(香川)
惜 秋	同	赤井隆二郎(東京)
青い食卓	同	櫻井眞太郎(東京)
閑かなる午後	同	水谷 春夫(東京)
西洋畫科		
黒衣坐像	自畫像	石川 滋彦(東京)
S君の像	同	濱口 喬夫(高知)
父の像	同	牲川 英雄(和歌山)
午後	同	戸田 郁郎(東京)
男	同	李 馬 銅(朝鮮)
座せる婦人像	同	小原 雄二(福岡)
弟	同	岡 一郎(新潟)
婦人像	同	加藤 清一(北海道)
裸 婦	同	田邊 門樹(愛知)





ひざまづける女	同	菅沼藤太郎(愛知)	バスハウス	同	小野田 明(愛知)
習作	選科	井上 安一(熊本)	小學校と幼稚園	同	加倉井昭夫(茨城)
女教師の首	同	長谷川正雄(長野)	湖畔ホテル	同	村松作次郎(静岡)
女首習作	同	大石 兼男(山形)	パウシウレ	同	梅田 良雄(富山)
きんちゃん	同	大森 弓磨(茨城)	Sea Side Hospital	同	松浦 主税(兵庫)
立女	同	若島 俊夫(富山)	海濱ホテル	同	後藤菅一郎(東京)
女首	同	龜田千代造(栃木)	學生會館	同	天野 正治(東京)
自像	同	關東 賢二(福岡)	音樂學校	同	佐保 新(長崎)
首	同	山田 敏雄(大阪)	圖案科		
首A、B、C	同	前田與十郎(石川)	展望車内裝飾圖案	本科	池田 美明(石川)
少女像	同	文 錫 五(朝鮮)	壁掛及飾棚圖案	同	林 龜次郎(茨城)
無題	同	有地 重則(長崎)	鏡臺及附屬品圖案	同	押野 芝文(石川)
少女	同	水野金三郎(静岡)	染織應用壁掛圖案	同	加藤 次雄(東京)
家族	同	介川 芳松(茨城)	シヨウウキンドウ各種圖案	同	片野 久夫(東京)
			婦人洋品店裝飾及廣告圖案	同	蒲生 寛(宮城)
			緞帳及工藝品文様圖案	同	吉村幸一郎(石川)
二笑	本科	石塚 貞男(埼玉)	漆器飾棚及飾品各種圖案	同	谷内 尙文(富山)
荷揚人夫	同	奥山 泰堂(愛知)	食料品及化粧品容器各種圖案	同	辻 復(東京)
大聖孔天子	同	安田 春男(大阪)	織物應用衝立圖案	同	向井福三郎(北海道)
踊る彼	同	江上 正男(廣島)	サンマハウス室内裝飾圖案	同	福井 尙武(宮城)
女性ゴルフア	同	清水 利治(富山)	壁面裝飾圖案	同	越田 喜作(石川)
猫	選科	岡田 春吉(東京)	ラヂオ器具各種圖案	同	遠藤彌四郎(京都)
水浴	同	小林 芳聰(香川)	劇場裝飾圖案	同	我妻 榮(山形)
劇場	本科	磯山 正(静岡)	金工科		

彫金部

果物盛

本科 長谷川 昇(東京)

少女像

(西洋畫) 太齋 春夫(宮城)

水盤

選科 大谷 四郎(茨城)

室内裸婦

(同) 常松 菅晴(福島)

花瓶

同 鈴木 猛雄(茨城)

寝たる女

(同) 永田 珠一(熊本)

鍛金部

壺

本科 知坂 浩(宮城)

夕刊賣子

(日本畫) 熊田滿佐吾(大阪)

菓子器

同 鈴木 孝次(東京)

鳳來峽待春

(同) 藤原 芳春(愛知)

鑄造科

Ball Room への噴水

本科 秤 雄吉(鳥取)

赤靴の女

(西洋畫) 古野 由男(廣島)

天井照明

同 多田 茂吉(東京)

室内の女

(同) 坂元 一男(鹿兒島)

外燈

同 辻 正雄(石川)

寝臺の女

(同) 岐部 兆治(静岡)

水盤

同 山本 達次(富山)

裸體

(同) 水田 莊介(福島)

キャビネット付電氣スタンド

同 淺野 茂夫(岐阜)

無衣仰臥

(同) 廣橋 齋(富山)

喫煙臺

同 新免 弘男(岡山)

横臥裸婦

(同) 森 英(香川)

漆工科

照明器

本科 吉田佐久穂(大阪)

圖書館

(日本畫) 森 重武(奈良)

棚

同 田窪 眞吾(愛媛)

山村小景

(西洋畫) 森本 仁平(石川)

食籠

同 熊谷 茂(富山)

裸婦

(日本畫) 末廣 正治(熊本)

圖畫師範科

トランプ

(日本畫) 大島 正記(大分)

新入學生氏名

(西洋畫) 鈴木 清喜(福島)

コスチーム

(西洋畫) 岡田 勝(奈良)

日本畫科第一學年(イロハ順)

(日本畫) 大島 正司

椅子に凭れる女

(同) 尾上 一男(埼玉)

池邊 安民

(同) 常松 菅晴(福島)

秋庭

(日本畫) 竹内 實(神奈川)

渡邊 重

(同) 永田 珠一(熊本)

室内裸婦

(西洋畫) 武智 輯(愛媛)

山口吉三郎

(同) 熊田滿佐吾(大阪)

是永 仲一

荒木 茂雄

安藤 重春

西洋畫科第一學年(イロハ順)

佐々木正之 菊澤 榮一  
木島正次郎 清水 保二  
望月 定夫 鈴木金次郎  
飯田 稔 飯島 保久  
富樫 正雄 富岡 仁  
岡 晃正 小田 忠  
渡邊 修 川村 滋  
上沼 俊次 高見澤藤次  
立田 三朗 田中角治郎  
館 慶市 筒井 廣道  
成井 弘文 鳴海健次郎  
上野山治雄 山本占太郎  
松下 義治 万江 行人  
古田 嘉平 藤谷 善人  
後安 重信 天野 芳彦  
金 仁<sup>(丞)</sup> 三橋 健  
椎野 修

彫刻科塑造部第一學年(イロハ順)

伊室 正次 本莊 正雄  
小輕米德松 河瀬 亮一  
山口 薰二 小柴 利孝  
北村 治禧 水野幸太郎  
白井謙二郎 畷津 一郎  
木島 邦彦  
平口 勝雄  
橋本<sup>(橋)</sup> 義夫  
大戸 陽平  
渡邊 一郎  
川端 謹次  
高階 重紀  
多久 英策  
内藤 達雄  
村岡 平藏  
松田 正平  
萬王 隆三  
小山 明  
佐藤 正夫  
清水 正喜

彫刻科木彫部第一學年(イロハ順)

新免 弘男 守山 吉嗣  
岩井 藤吉 西出 大三  
和氣 善澄 内藤 敏雄  
宮崎 道正

建築科第一學年(イロハ順)

今村 三郎 池田 壽男  
沖坂左那衛 今 逸郎  
佐世 治正

圖案科第一學年(イロハ順)

稻村 一哉 池邊 義路  
細川 浩 高橋正次郎  
黑澤圓次郎 小林伊智郎  
赤羽 喜一 足立 一郎  
坂庭 正二 賣豆紀悅一

金工科彫金部第一學年(イロハ順)

石川信太郎 原 三郎  
津越 久男 藤村 信幸

金工科鍛金部第一學年(イロハ順)

大西 甚平 槻尾 宗一

鑄造科第一學年(イロハ順)

伊本 淳 吉田 茂夫  
中田 元 小島 外夫  
鈴木 泰

田中 久衛  
佐々木他計雄

漆工科第一學年(イロハ順)

今村 亨 田中 穎雄 中田 秀雄  
 増田 正一 安藤 良保 滋野 潔

關口 秀彌

圖畫師範科第一學年(イロハ順)

伊藤 昇 井口 清 石井壬子夫  
 濱口 忍翁 羽生 彦之 鹿兒島光彦  
 田村 庄内 野本 正彦 小野口陸太郎  
 古城戸 優 藤原 昇一 小池 房雄  
 穴澤 祐春 足代 義郎 佐竹 正吾  
 宮川富士雄 白井 正 志村 正守  
 敷島弘美智 鈴木 泰正

科名	應募人員	受験人員	募集人員	入學許可
日本畫科	九八	九三	二〇	二〇
西洋畫科	三八〇	三五〇	四〇	四〇
彫刻科塑造部	四〇	三六	一七	一七
彫刻科木彫部	八	八	八	七
建築科	六九	六三	七	七
圖案科	一一五	一〇六	一五	一五
金工科彫金部	一一	一〇	五	五
金工科鍛金部	五	五	三	三
鑄造科	一八	一六	七	七

漆工科

計 一五 一四 七 七  
 七五九 七〇一 一二九 一二八

特別學生

科名 應募人員 受験人員 募集人員 入學許可

西洋畫科 二 二 一 〇

彫刻科塑造部 三 三 一 〇

圖案科 一 一 一 〇

計 六 六 一 〇

圖畫師範科

科名 應募人員 受験人員 募集人員 入學許可

圖畫師範科 二七八 二七〇 二〇 二〇

應募人員總數 一〇四三

入學許可者數 一四八

昭和七年度各科特待生人名

科名	年級	特待生人名
日本畫科	二年	高山 辰雄
西洋畫科	二年	守屋 正
西洋畫科	三年	岡田 昇
西洋畫科	四年	高木幸太郎
西洋畫科	五年	鹽 長廣
西洋畫科	二年	中西 次郎
西洋畫科	三年	三輪 孝
西洋畫科	四年	小田谷養次

同	彫刻科塑造部	五年	宮川 泰孝
同	同	三年	北地 莞爾
同	同	五年	新井喜惣治
同	同	五年	岩崎 良平
同	同	五年	木下 繁
同	彫刻科木彫部	三年	堀野 秋雄
同	同	四年	古川 順三
同	同	四年	靱山 三毅
同	建築科	三年	福田 良一
同	同	四年	中久木宏策郎
同	同	五年	石川 恒雄
同	圖案科	二年	島 元次
同	同	三年	小池岩太郎
同	同	四年	加藤 清澄
同	同	五年	才田 健治
同	金工科彫金部	三年	古代 幸三
同	同	四年	野口 量介
同	金工科鍛金部	五年	本島 高明
同	鑄造科	二年	三井安蘇夫
同	同	三年	新川 太郎
同	同	三年	鹿取 一男
同	漆工科	三年	寺井 直次
同	同	四年	城倉 可成

學校近事〔三一—二。S・七・六・一〇〕

○職員辭令

昭和七年三月十五日

敍從七位

教授 海野 清

同 年三月三十一日

新 規矩男

本校講師ヲ囑託ス 但西洋文學及佛蘭西語授業擔任

正木 篤三

本校講師ヲ囑託ス 但東洋文學授業擔任ノ事

助教 和田 季雄

教務掛主任ヲ命ス

片山 米藏

東京美術學校雇ヲ命ス 監視補助ヲ命ス

臨時囑託 玉置 圭一

用務濟ニ付臨時囑託ヲ解ク

書記 芹澤 閑

本校主任收入官吏書記筒崎謙齋取扱ニ係ル帳簿金櫃ノ検査ヲ命ス

書記 佐藤 重吉

昭和六年度物品出納検査官吏ヲ命ス

同 年四月二日

書記 谷本千代雄

横濱市へ出張ヲ命ス 但往復共一日ノ事

同 年同月四日

陸敎高等官二等 内閣 敎授 岡田信一郎  
賞勳局  
同 年四月五日

本校講師ヲ囑託ス 但圖書師範科ニ課スル西洋畫實習擔任ノ事  
伊原宇三郎

西洋畫科實習授業擔任ヲ命ス 圖書師範科西洋畫實習授業擔任ヲ  
免ス 敎授 田邊 至

同 年同月八日 敎授 渡邊 啓三

(各通) 同 森田龜之助

助敎授 田邊 孝次

同 小泉 勝爾

學術實地指導ノ爲京都府奈良縣和歌山縣へ出張ヲ命ス 但往復共  
十七日間ノ事 講師 齋藤 幸晴

同 鎌倉芳太郎

本校生徒修學旅行ニ付京都府奈良縣和歌山縣へ出張ヲ命ス 但往  
復共十七日間ノ事 雇 瀨谷 義廣

同 年同月九日 敎授 海野 清

工藝審査委員會委員被仰付 内閣  
同 年同月十一日

東京美術學校服務  
陸軍歩兵少佐 石川 吉郎  
從五位勳四等

任陸軍歩兵中佐 内閣  
同 年同月十三日 地方技師 岸 熊吉

本校生徒奈良縣下修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス  
從六位 新納忠之介

本校生徒京都府下修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス  
地方技師 安間 立雄

依願解囑 講師 中田 俊造

幹事ヲ命ス 敎授 矢代 幸雄

同 年同月十五日 敎授 和田 英作

陸敎高等官二等 内閣 敎授 和谷 昇

東京美術學校敎務ヲ囑託ス 彫刻科勤務及敎務掛兼勤ヲ命ス 敎務囑託 入谷 昇

同 年同月十六日 東京美術學校助教 田邊 孝次

任東京美術學校敎授兼東京美術學校生徒主事 陸軍歩兵少尉正八位 敎高等官七等 内  
閣 十級俸下賜 文部省 助敎授 松田 義之

同 年同月十八日 同 松垣 靄雄  
學術實地指導ノ爲京都、大阪、愛知、奈良ノ二府二縣下へ出張ヲ  
命ス 但往復共十日間ノ事

同 年同月二十日

任東京美術學校助教  
東京美術學校助教 和田 季雄  
陸軍歩兵中尉從七位勳六等  
紋高等官七等 内閣 十級俸下賜 文部省

(各通)

任東京美術學校助教 文部省 給四級俸

講師 山田 廉

同 岡 四郎

講師囑託ヲ解ク

助教授 山田 廉

日本畫科繪畫實習授業擔任ヲ命ス

助教授 岡 四郎

西洋畫科西洋畫實習授業擔任ヲ命ス

萩原利三郎

東京美術學校助手ヲ命ス 工藝化學教室勤務ヲ命ス

同 年同月廿一日

教授 六角注多良

學術研究ノ爲富山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同 年同月廿二日

丸山 義男

本校講師ヲ囑託ス 但鑄造科鑄造實習及鑄金製作法擔任ノ事

小塚新一郎

本校講師ヲ囑託ス 但圖畫師範科ニ課スル教育學心理學修身授業

擔任ノ事

助教授 常岡 文龜

學術實地指導ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事  
同 年同月廿三日

(各通)

依願解囑  
同 年同月廿五日

助手 磯矢 陽

任期滿了ノ處更ニ壹ケ年間助手ヲ命ス 但給與並勤務從前之通

加藤 金美

東京美術學校助手ヲ命ス

比田井 鴻

同 年同月三十日

本校講師ヲ囑託ス 但圖畫師範科ニ課スル習字授業擔任ノ事

白川 一郎

本校講師ヲ囑託ス 但用器畫法及遠近法授業擔任ノ事

同 年五月二日

教授 六角注多良

陸紋高等官三等

教授 建昌彌一郎

同 森 芳太郎

同 渡邊 啓三

同 朝倉 文夫

同 北村 西望

同



陸絛高等官四等

教授 伯爵 平田 榮二

建築科主任ヲ命ス

講師 大澤三之助

陸絛高等官五等

教授 石田 英一

東京美術學校服務

陸軍歩兵中佐 石川 吉郎

陸絛高等官六等

教授 森田龜之助

生徒ノ訓育ニ關スル事務ヲ囑託ス

講師 正木 篤三

教授兼生徒主事 田邊 孝次

文庫掛事務兼勤ヲ囑託ス

敘從七位

從六位勳五等 鈴木 信一

同年同月三日

教授 六角注多良

本校講師ヲ囑託ス 但用器畫法及遠近法授業擔任ノ事

片岡照三郎

學術研究ノ爲宮城縣下へ出張ヲ命ス

但往復共三日間ノ事

同年同月五日

本校漆工科ニ課スル彫鏤實習ヲ一學期間（昭和七年五月ヨリ同年七月ニ至ル）臨時囑託ス

助教授 青山 新

同年同月十一日

西洋美術史臨時擔任ヲ命ス

講師 鎌倉芳太郎

助教授 長野 新一

東洋繪畫史臨時擔任ヲ命ス

講師 伊原宇三郎

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス 文部省

建築科圖案科金工科鑄造科及漆工科ニ課スル西洋畫授業擔任兼務ヲ命ス

講師 伊原宇三郎

同年同月十三日

建築科圖案科金工科鑄造科及漆工科ニ課スル西洋畫授業擔任兼務ヲ命ス

講師 伊原宇三郎

教授 小林 萬吾

建築科圖案科金工科鑄造科及漆工科ニ課スル西洋畫授業擔任兼務ヲ命ス

講師 伊原宇三郎

學術研究ノ爲朝鮮へ出張ヲ命ス 但往復共十二日間ノ事

ヲ命ス

講師 伊原宇三郎

學術研究ノ爲朝鮮へ出張ヲ命ス 但往復共二週間ノ事

教務掛ヲ免シ生徒主事室勤務ヲ命ス

雇 佐々木總一郎

教授 田邊 孝次

同年同月十日

教授 建畠彌一郎

學術實地指導ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

同年同月十日

教授 建畠彌一郎

同 三浦 直政

彫刻科主任ヲ命ス

教授 建畠彌一郎

同年同月十四日

同 三浦 直政

依願解囑

講師 岡倉由三郎

元書記 増井 兼吉

紋勲六等授瑞寶章 賞勳局

同 年月十七日

學課主任ヲ命ス

教授 矢代 幸雄

學課主任ヲ命ス

(各通)

教授 森田龜之助

助教授 青山 新

學課理事ヲ命ス

○渡邊〔啓三〕教授 森田〔龜之助〕教授、田邊〔孝次〕助教授、

小泉〔勝爾〕助教授と共に今年修學旅行團の指導教官として各科

五年生七十餘名を引率し四月十三日夜東京驛を出發して奈良京都

方面を巡歴し同月廿九日に歸京したり

○鎌倉〔芳太郎〕講師 齋藤〔佳藏〕講師、瀬谷〔義広〕會計掛の

三氏も修學旅行團の生徒監督又は事務掛として出張し四月廿九日

歸京せり

○松田助教授〔義之氏〕 松垣〔靄雄〕助教授と共に師範科三年生

二十餘名を引率し四月廿一日より愛知縣奈良縣大阪府京都府地方

を旅行し實地指導を爲し同月三十日歸京せり

○佐々木〔卓〕主事 名古屋醫科大學主事より本校生徒主事に轉

任せられたる同氏は小石川區高田老松町六十二番地に卜居された

り

○水谷〔武彦〕助教授 三月中在原郡大井町瀧王子四三八一番地へ

轉居さる

○鈴川〔信一〕講師 五月下旬在原郡調布田園都市六一九番地へ轉居さる

岡田〔信一郎〕教授長逝

岡田教授は昨年以來久しく病牀に在りて療養に勉められ居たりしが病急に革まりて四月四日遂に長逝されたり 同月六日午後磯川護國寺に於て盛大なる葬儀を營まる 本校職員厚誼會より生花壹對を

靈前に供し多數職員會葬したり 同教授は明治四十年五月より本校講師として従事され大正十二年十月一日一躍高等官三等の本校教授に任ぜられ建築科に主任たり 卒去の日高等官二等〔勅任〕に陞叙

され又勲四等に叙し瑞寶章を授與さる 此の紋勲は在官年月に依る定期紋勲に非ずして同教授が生前建築學界に於ける幾多の功績を認められたる特殊紋勲にて其光榮は一段の光輝あるものなり 因に其

の告別式に際して赤間〔信義〕學校長事務取扱の呈せられたる弔辭左の如し

故東京美術學校教授岡田信一郎君弔辭

我建築學界ノ偉器雄材タル岡田信一郎君 久シク病ミテ起タズ

遂ニ館ヲ損ツ 享齡正ニ五十 稀世ノ才人短命ニ殞ル、コト洵ニ悼惜ニ堪エサルナリ 君明治三十九年ヲ以テ業ヲ東京帝國大學ニ

卒ヘ恩賜賞ヲ拜受シ秀才ノ名譽夙ニ噴々タリ 翌年來リテ吾東京美術學校講師ノ職ニ就キ次テ教授ニ任シ建築科ニ主任タリ 則チ

君ノ吾校ノ爲ニ盡瘁セラル、實ニ二十五年ノ久シキニ逮フ 君深

邃ノ學識ト俊邁ノ才氣ヲ以テ生徒ヲ指導薰陶ス 吾校建築科ヨリ

若リニ有爲ノ材輩出シ社會ニ活動スル所以ハ主トシテ君カ功績ニ  
 ヨル 而シテ又君ハ建築ニ關スル學者トシテ各種論文ヲ著述シス  
 界ニ寄與スル所甚大ナリ 其ノ建築設計ニ至ツテハ最モ君ノ秀麗  
 ナル才幹ヲ發揮セル所ニシテ我國各地特ニ首都ノ各方面ニ巍立セ  
 ル巨樓廈屋紀念碑等ニシテ君ノ設計ニ成リタルモノ樓指ニ違アラ  
 ス 嗚呼斯ノ人今ヤ長ク逝イテ返ラス 空シク君カ半世ノ功業ヲ  
 追思シテ哀惜ノ感愈々深シ 茲ニ葬儀ヲ舉行セラル、ニ臨ミ恭シ  
 ク弔辭ヲ呈ス

昭和七年四月六日

東京美術學校長事務取扱 赤間 信義

故岡田教授略歴

一、明治十六年十一月廿日故陸軍藥劑監岡田謙吉の次男として東京  
 市芝區宇田川町に生る

一、明治二十八年東京市立富士見小學校を卒業す

一、明治三十三年高等師範學校附屬中學校を卒業す

一、明治三十六年第一高等學校を卒業す

一、明治三十九年三月東京帝國大學工科大学建築學科を卒業す 卒  
 業に際し成績優秀の故を以て恩賜の銀時計を拜受す

一、卒業後直ちに警視廳並に清水組の囑託となり明治四十一年より  
 四十四年まで日本銀行建築事務を囑託せらる 大正四年日本赤  
 十字社建築顧問に擧げらる

一、明治四十年東京美術學校講師となり亦早稻田大學教授となり續  
 いて東京美術學校建築科主任教授を拜命し建築教育に専念す

一、各種の美術工藝團體の諸委員に擧げられ殊に建築學會役員とし

ては其の編輯方面に畫策する所たり 亦諸種の調査機關に委員  
 の主査となり都市計劃及建築法規の基本草案作成に參劃する所  
 多し

一、教育公務の餘暇、歌舞伎座、東京府美術館、大阪高島屋、黒田  
 記念館、鎌倉國寶館、明治生命保險株式會社本社（工事中）其  
 他邸宅建築等の設計意匠に當れるもの頗る多し

一、昭和四年七月一日從五位に叙せらる 昭和七年四月高等官二等  
 に昇叙せられ正五位に叙せらる 又勳四等瑞寶章を授けらる  
 一、昭和七年四月四日病あらたまり東京市牛込區神樂町の自宅に於  
 て長逝す

學校近事（三一—三。S・七・七・六）

○職員辭令

昭和七年六月十六日

敍從五位

教授 六角注多良

（各通）

教授 建昌彌一郎

同 森 芳太郎

同 渡邊 啓三

敍正六位

教授 石田 英一

敍從六位

教授 森田龜之助

敘正七位 以上官内省

昭和七年五月三十日

東京美術學校教授  
從四位勳三等 和田 英作

任東京美術學校長 紋高等官二等 内閣

學校長 和田 英作

賜三級俸 文部省

專門學務局長 赤間 信義

東京美術學校長事務取扱ヲ免ス 文部省

講師 田中 喜作

依願解囑

八木橋伊佐雄

東京美術學校助手ヲ命ス(漆工科勤務)

同年六月一日

教授 海野 清

金工技術研究ノ爲滿一年間佛蘭西國ニ在留ヲ命ス 文部省

同年同月六日

(各通)

正三位勳一等 正木 直彦  
從三位勳三等 久米桂一郎

東京美術學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク 内閣

同年同月十日

(名譽教授) 正三位勳一等 正木 直彦

對支文化事業調査會委員被仰付 内閣

同年同月十一日

經理課長ヲ命ス

教授 津田 信夫

教務課長ヲ命ス

文庫課長ヲ命ス

經理課庶務掛長ヲ命ス

經理課會計掛長ヲ命ス

教務課教務掛長ヲ命ス

教務課生徒掛長ヲ命ス

文庫課標本掛長ヲ命ス

同年同月十三日

文庫課圖書掛長兼務ヲ命ス

同年同月十五日

(學校長) 從四位勳三等 和田 英作

敘正四位 宮内省

教授 島田 佳矣

陸紋高等官二等 内閣

教授 沼田勇次郎

勅任官ヲ以テ待遇セラル 内閣

書記 谷本千代雄

物品會計官吏ヲ命ス

書記 北浦 大介

物品會計官吏ヲ免ス

同年同月十八日

教授 森田龜之助

教授兼生徒主事 田邊 孝次

教授 和田 季雄

(各通)

教務課勤務ヲ命ス

講師 新規矩男

文庫課事務兼勤ヲ囑託ス

○沼田〔勇次郎〕教授 六月一日附にて商工省陶磁器試験所より陶磁器の彫塑に關する事項を囑託せられたり

○杉田〔精二〕講師 六月六日附にて地方商工技師〔高等官六等待遇〕に任ぜられ大阪府商工技師に補せられたり

○本校従來の教務分掌規程を廢して教育事務分掌規程を制定し又事務分掌規程に改正を加へたる結果幹事職は解消し新に經理課教務課文庫課を設け各課に二掛を置き即ち三課六掛の制度となり六月十一日を以て各課長掛長を任命し夫々の掛員も新に辭令を交付したり

○文部省に於て今回明治大正美術史編纂委員會を設けられ正木〔直彦〕前校長其の委員長を囑託され和田〔英作〕新校長高村〔光雲〕名譽教授結城〔貞松〕教授矢代〔幸雄〕教授香取〔秀治郎〕講師は共に其の委員を囑託されたり

○今回和田〔英作〕新校長就任せられ赤間〔信義〕校長事務取扱は任務を終了相成り正木〔直彦〕前校長久米〔桂一郎〕前教授は共に本校名譽教授の名稱を授與せられたるに付右祝賀又は慰勞の爲に六月十四日午後五時半より目黒雅敘園に四氏を招請して一夕の清宴相催したり 因に出席職員總人員は八十七人にして極めて盛會なりき

今回學校長として和田教授就任されたるに就き六月七日赤間前學校長事務取扱並に和田新學校長は校内職員一同に對し夫々挨拶あり

たり。

今回正木前學校長は名譽教授の榮稱を授與せられ和田新學校長と共に六月十四日校内生徒一同に對して夫々挨拶並に訓辭ありたり。

〔右挨拶および訓辭の本文は省略〕

卒業生主催新舊學校長送迎會

正木〔直彦〕前學校長、和田〔英作〕新學校長の爲めに、各科卒業生中、磯矢完山、乾南陽、飯塚豊、新田藤太郎、尾川藤十郎、和田順顯、勝田蕉琴、四谷正美、中澤弘光、福島仲、兒島明、後藤良、阪谷良之進、白瀧幾之助、廣瀬尋常の諸氏世話人となり、六月十八日午後五時半より日比谷公園前三信ビル食堂に於て其の送迎會を開催せり、乾南陽、勝田蕉琴兩氏開會の辭を述べ、正木前校長、和田新校長の挨拶の辭あり、田雜五郎、板谷波山、澤田宗山の諸氏は、各々祝辭並に感想を述べられ、極めて和氣霽々裡に緊張せる會を了へたり。當日出席の諸氏左の如し。

河面 冬山	松田 權六	山田 義雄
磯矢 完山	兒島 明	高野 重人
福島 仲	勝田 蕉琴	乾 南陽
白井 剛夫	小倉 要	武州勘右衛門
吉田 秋光	阪谷良之進	岡田 富藏
小森 二郎	荻生 天泉	中山 正義
山内 幸男	岡田 秀	飯塚 豊
山下 正次	渡邊 香涯	森田 武
四谷 正美	横江 嘉純	富田 基一
佃 武昭	木元平太郎	藤岡 一

今井伴次郎	安藤東一郎	三浦直政	吉田五十八	織田慎一	白瀧幾之助
岡部敬之助	矢澤貞則	高村豐周	渡邊長男	須田虎郎	齋藤龍江
山崎覺太郎	下田照太郎	藤岡龜三郎	田村彩天	千頭庸哉	相羽彦次郎
三尾與喜藏	高橋吉雄	鈴木雪哉	北蓮藏	鈴木千久馬	高木摩天
大給近清	霜田靜恩 <small>(志)</small>	田邊孝次	田島龜彦	織田信大	豐田勝秋
富永勝重	松岡映丘	松見吉彦	岡田捷五郎	中村春野	鈴木信一
瀧川一則	澤田宗山	磯野吉雄	宮川退三	南薰造	金山平三
神矢教親	西伊三次	太田義一	正宗得三郎	刑部人	島津一郎
鹽崎一郎	古田立次	關教信	結城素明	神津港人	三國久
丸野豐	伊達五郎	別役良民	狩野探道	權藤種男	根上富治
小堀稜威雄	柳生鹽億	中澤弘光	跡見泰	島田佳矣	三橋武顯
佐藤哲三郎	安宅安五郎	玉置照信	小倉和一郎	手塚一郎	三橋省三
我妻榮吉	青山新	橫山常五郎	馬場信一	三井義夫	松山省三
篠田十一郎	篠原晚香	田雜五郎	石川確治	松岡嘉明	森村稻門
津田信夫	加藤靜兒	林炳東	井上雄太郎	出口清三郎	藤波信男
森學	石河壽衛彦	原田謹次郎	二橋美衡	六角紫水	大久保作次郎
山田直次	大野隆德	小泉勝爾	毛利教武	橫山與作	岡本一平
板谷波山	吉村芳松	香取秀眞	小絲源太郎	兼光豐治	飯島眞鳳
伊藤龍吉	松村芳男	寺内萬治郎	岡登貞治	中村研一	鶴川俊三郎
和田季雄	廣瀬尋常	金子保	和田香苗	永田春水	上野正之助
吉村忠夫	瀧本友太郎	常岡文龜	梶原貫五	岡百壽	森田龜之助
香川敬事	高城次郎	花村晃觀	大槻式雄	熊岡美彦	小寺健吉
森山香浦	清水良雄	齋藤知雄	畑正吉	田中良	高間惣七
雨宮治郎	早崎梗吉	岩田藤七	小林親光	菊澤武江	野生司香雪
					柏谷後彫

五味 和十 岡本 喜藏 和田 順顯  
 倉垣 辰雄 安川日露四 花里 金央  
 藤岡 茂男 橋本八百二 岡野 榮  
 廣島 晃甫 榎本千花俊 郡司 福秀  
 東谷 桃園 朝蔭 其明 水上 泰生  
 安田岩次郎 後藤 良

學校近事 (三一—四。S・七・一〇・五)

○職員辭令

昭和七年六月二十日

靜岡縣下へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事 講師 齋藤 幸晴  
 同年同月廿九日

佛蘭西國政府ヨリ贈與シタル「オフキンシー、エトアル、ノアル」勳章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許セララル 賞勳局  
 兼生徒主事 田邊 孝次  
 同年同月三十日

本校講師ヲ囑託ス 但圖案科ニ課スル工藝製作法(漆工)授業擔任ノ事 高野 重人  
 任ノ事 深瀬 嘉臣

本校講師ヲ囑託ス 但金工科金工實習授業擔任ノ事

羽野 禎三

本校講師ヲ囑託ス 但圖案科圖案實習授業擔任ノ事

内藤 春治

本校講師ヲ囑託ス 但鑄造科鑄造實習授業擔任ノ事

臨時雇 兼田 稔

(各通) 東京美術學校雇ヲ命ス  
 文庫課標本掛兼圖書掛ヲ命ス

井上みちよ

(各通) 東京美術學校雇ヲ命ス  
 文庫課圖書掛兼標本掛ヲ命ス

同年七月二日

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ囑託ス 但往復共四日間ノ事 講師 齋藤 幸晴  
 東京美術學校服務 石川 吉郎  
 陸軍歩兵中佐

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事 講師 齋藤 幸晴

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事 教授 森田龜之助  
 書記 北浦 大介  
 同年同月六日

同年同月六日

生徒主事 佐々木 卓

兼任東京美術學校教授 内閣

叙高等官三等

教授 森田龜之助

兼任東京美術學校生徒主事 内閣

敍高等官六等

教授 和田 季雄

兼任東京美術學校生徒主事 内閣

敍高等官七等

同 年同月七日

講師 内藤 春治

學術研究ノ爲宮城縣下へ出張ヲ命ス 但往復共十八日間ノ事

同 年同月九日

教授 矢代 幸雄

學術研究ノ爲奈良縣下へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

講師 金澤 庸治

同 齋藤 幸晴

山梨縣下へ出張ヲ命ス 但往復共十日間ノ事

同 年同月十九日

講師 金澤 庸治

經理課會計掛兼勤ヲ命ス

野末 武

(各通) 東京美術學校雇ヲ命ス  
經理課會計掛ヲ命ス

同 年同月二十二日

教授 伯爵 平田 榮二

圖畫師範科主任ヲ免ス

同 年同月二十三日

助教授 三浦 直政

圖畫師範科理事ヲ免ス

教授 結城 貞松

(各通) 圖畫師範科兼勤ヲ命ス  
圖畫師範科主任ヲ命ス

同 年同月二十五日

助教授 松田 義之

圖畫師範科理事ヲ命ス

兼生徒主事 森田 龜之助

同 和田 季雄

學術研究ノ爲千葉縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

同 年同月二十六日

廣川 松五郎

任東京美術學校助教授 文部省

同 年同月廿九日

從四位勳三等(教授) 島田 佳矣

敍正四位 宮内省

同 年同月三十日

教授 島田 佳矣

依願免本官 内閣

同 年八月一日

助教授 廣川 松五郎

圖案科理事ヲ命ス

助教授 千頭 庸哉

圖案科理事ヲ免ス

教授 小林 萬吾

同 水谷 鐵也

陸敍高等官三等 内閣

同 松岡 輝夫



同 年同月六日

教授 森 芳太郎

任東京美術學校教授 內閣  
敘高等官三等

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス 文部省

同 年同月八日

助教授 青山 新

任東京美術學校教授 內閣  
敘高等官四等

經理課兼勤ヲ命ス

同 年同月十日

元教授 島田 佳矣

(各通) 圖案科兼勤ヲ命ス  
圖案科主任兼務ヲ命ス

講師 大澤三之助

敘從三位 宮內省 特旨ヲ以テ位一級被進

同 年同月十二日

助教授 千頭 庸哉

西洋文様史授業擔任ヲ命ス

教務囑託 岩崎 巖

任東京美術學校教授 內閣 敘高等官六等

同 年同月十三日

教授 千頭 庸哉

依願解囑

熊岡 本邦

依願免本官 內閣

同 年八月十五日

正六位勳五等 小林 萬吾

同 年九月一日

(各通) 東京美術學校雇ヲ命ス  
文庫課圖書掛兼標本掛ヲ命ス

教授從四位勳四等 川合芳三郎

同 年同月二日

同 同 水谷 鐵也

陸敘高等官二等 內閣

助教授 松田 義之

敘從五位 宮內省

同 年同月十七日

同 同 松岡 輝夫

同 同 宮本 純一

任東京美術學校書記 文部省

同 年同月卅一日

奈良女子高等師範學校教諭 兼同校教授 從五位勳五等 多賀谷健吉

任東京美術學校書記 文部省

書記 利部房太郎

依願免本官 文部省

同年同月九日

中原 芳子

圖案科ニ課スル日本畫授業擔任ヲ命ス

教授 渡邊 啓三

(各通) 東京美術學校雇ヲ命ス  
教務課教務掛ヲ命ス

同年同月十日

助教 廣川松五郎

教員志望者ニ課スル西洋畫授業擔任ヲ命ス

教授 小林 萬吾  
教授 多賀谷健吉

圖案科勤務ヲ命ス 但圖案法及圖案實習授業擔任ノコト

(各通) 金工、鑄造、漆工ノ各科及圖畫師範科兼勤ヲ命ス

但圖案法及圖案實習授業擔任ノコト

講師 金澤 庸治

同年九月九日

教授 從六位勳六等 石田 英一

圖案、金工、鑄造、漆工ノ各科兼勤ヲ命ス 但用器畫法授業擔任

ノコト

教授 多賀谷健吉

同年同月十日

助教 關野金太郎

圖畫師範科兼勤ヲ命ス 但日本畫、西洋畫、教授法及教授練習授

業擔任ノコト 教員志望者ニ課スル教授法授業擔

任ヲ命ス

教授 南 薰造

任東京美術學校教授 內閣  
紋高等官七等

○松田助教授(義之氏) 老齡の母堂病氣重態の爲め八月廿二日郷

里愛知縣一ノ宮市に歸省看護に力められしも廿四日遂に永眠せられ定式の忌服をされたり 依つて學校職員厚誼會より香奠金一封を贈呈し弔悼したり

(各通) 西洋畫科勤務ヲ命ス 但西洋畫授業擔任ノコト

教授 平福 貞藏

特別實習

圖畫師範科兼勤ヲ命ス 但日本畫授業擔任ノコト

教授 建昌彌一郎

圖畫師範科兼勤ヲ命ス 但手工授業擔任ノコト

助教 山田 廉

圖畫師範科兼勤ヲ命ス 但日本畫授業擔任ノコト

昨年夏期中行つた特別實習は效果のある催であつたから、本年も亦開催することとなり、昨年の木工漆工の外に、本年は鑄造も開講することとなり、左の諸先生を煩した。

木工 松田(義之)助教授 自七月十三日至同十九日

漆工 六角(注多良)教授 自七月十一日至同十六日

磯谷〔陽〕助手

鑄造 高村〔豊周〕助教 自七月十一日至同十六日

内藤〔春治〕講師

丸山〔義男〕講師

木工實習要項

○講義

一、木材の性質 木材の取扱方

一、木工具の使用法 手入 研ぎ方等

一、糸鋸機使用法

一、塗上法 目止 着色 漆塗 ワニス エナメル等

○實習

一、基本練習 板削 角棒 差口 接合

一、製作 書架〔着色ニス仕上〕

漆工實習要項

○講義

一、漆工材料 生漆 製漆 油塗料一般 塗料一般

一、漆工の技工 髹漆技 漆畫技 彫漆〔推〕漆等

○實習

一、髹漆〔堅地塗法による〕の實習

〔イ〕手板 丸盆 銘々盆 椀等の類 塗裝 蒔繪等の試作實驗

〔ロ〕金屬器物に高温硬化塗〔焼付〕を施す實驗

鑄造實習要項

○講義

一、鑄金術の概念

内容 原型材料及び製作法 鑄造材料 鑄造設備 仕上げ及び着色法

○實習

一、蠟型焼流し 灰皿 ペン皿の類 簡易なる込物實習 原型より着色まで

而して志望者は豫定以上に達し設備や工具の繰合上困つたが折角の志望であるから先生に御願して無理に都合をつけていたゞいた。

漆工と鑄造の實習の終つた日に一同俱樂部に集まり製作品を陳列して茶話會を開いた。

昭和七年九月十五日

○職員辭令

昭 和 七 年 九 月 十 五 日

學校近事〔三一—五。S・七・十一・一五〕

實業學校卒業程度檢定委員會委員ヲ囑託ス 文部省

教授 森井 健介

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

教授 南 薰造

(各通) 東京美術學校雇フ命ス  
教務課生徒掛ヲ命ス  
同年同月二十二日

書記 芹澤 閑

文官文限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス 文部省

書記 宮本 純一

經理課庶務掛長ヲ命ス

同年同月二十七日

東京美術學校服務  
陸軍歩兵中佐 石川 吉郎

本校生徒野外演習ニ付千葉縣國府臺ニ出張ヲ囑託ス 但往復共一日間ノ事

日間ノ事

教授兼 田邊 孝次

本校生徒野外演習ニ付千葉縣國府臺ニ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

日間ノ事

講師 齋藤 幸晴

本校生徒野外演習ニ付千葉縣國府臺ニ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

日間ノ事

生徒主事兼 佐々木 卓  
教授

本校生徒野外演習ニ付千葉縣國府臺ニ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

日間ノ事

西原多喜雄

(各通) 東京美術學校雇フ命ス  
經理課庶務掛ヲ命ス

同年同月二十九日

中根 勝

(各通) 東京美術學校事務ヲ囑託ス  
文庫課標本掛勤務ヲ命ス

任東京美術學校教授 敍高等官七等 內閣  
助教授 三浦 直政  
教授 三浦 直政

敍從七位 宮內省

同 年同月三十日

依願免本官

依願解囑

同 年十月一日

敍從七位 宮內省

同 年十月五日

(各通)  
教授 六角注多良

帝國美術院美術展覽會審査員被仰付 內閣  
教授 田邊 至

同 年同月七日  
教授 海野 清

同 年同月七日

武田 壽

(各通) 東京美術學校雇フ命ス  
經理課會計掛ヲ命ス

同 年同月八日

神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月十日

書記 筒崎 謙齋

川村 昇

(各通) 東京美術學校雇フ命ス  
經理課會計掛ヲ命ス

同 年同月十二日

同 年同月十二日

亞米利加合衆國及加奈陀へ出張ヲ命ス  
教授 矢代 幸雄

同年同月十五日

從四位勳四等 川合芳三郎

敍正四位 宮内省

從五位勳五等 多賀谷健吉

敍正五位 宮内省

同年同月十八日

教授 海野 清

在外研究ノ爲本日東京驛出發ノ旨届出タリ

同年同月十九日

助教授 松田 權六

學術研究ノ爲岩手宮城及福島ノ三縣へ出張ヲ命ス 但往復共四日

間ノ事

除服出仕

教授兼 生徒主事 田邊 孝次

○海野〔清〕教授 金工技術研究の爲め滿一年間佛蘭西國に在留を

命ぜられし處十月十八日午後七時三十分東京驛發神戸列車にて渡

佛の途に上られたり

○田邊〔孝次〕教授 十月十一日老齡の養父突然腦溢血症にて永眠

されたるに依り直ちに金澤市に歸省送葬の上歸京されたり 職員

厚誼會よりは香奠金一封を贈りて弔悼せり

○森田〔武〕助教 下谷區上根岸町一一一番地へ轉居されたり

○足立〔芳五郎〕囑託 大正五年十一月七日日本校書記として赴任さ

れ會計掛長として多大の功績を擧げられしが同十五年三月三十一日一旦本官を免ぜられ囑託となりて今日に至れるが今般九月三十日付を以て解囑となり茨城縣東茨城郡磯濱町大洗撫松園に轉居されたり

○兼田〔稔〕雇 本郷區駒込千駄木町一八六番地へ轉居されたり

學校近事〔三一—六。S・七・十二・一五〕

昭和七年十月三十一日

任東京美術學校教授 敍高等官四等 内閣

和田 三造

任東京美術學校教授 敍高等官四等 内閣

講師 正木 篤三

同 新 規矩男

學術研究の爲神奈川縣横濱市へ出張を命す 但往復共一日間の事

同年十一月一日

鳩ヶ谷敏治

臨時雇を命す 文庫課圖書掛兼標本掛を命す

同年十一月八日

教授 和田 三造

圖案科勤務を命す 但圖案實習授業擔任の事

講師 大澤三之助

圖案科主任兼務を免す

教授 和田 三造

圖案科主任を命す

同年十一月十二日

學術研究の爲神奈川縣下へ出張を命す  
但往復共一日間の事  
助教 小泉 勝雨  
同 常岡 文龜

學術研究の爲静岡縣下へ出張を命す  
但往復共二日間の事  
教授兼 田邊 孝次  
生徒主事

同年同月十五日

絳正六位 宮内省 教授 和田 三造

講師 吉野 富雄

學術研究の爲神奈川縣下へ出張を命す  
但往復共一日間の事

絳勳六等瑞寶章 教授 建島彌一郎

○和田(三造)教授 今回本校圖案科主任として就任せられ圖案科

の爲めに教鞭を取らるゝこと「と」なれり

○矢代(幸雄)教授 亞米利加合衆國及加奈陀へ約十ヶ月の豫定を

以て出張を命ぜられし處十一月二十四日午後零時三十分東京驛發

横濱港行列車にて渡米の途に上られたり

○多賀谷(健吉)教授 四谷區左門町二九番地へ轉居されたり

○宮本(純一)書記 瀧野川區田端町四四二番地へ轉居されたり

○高橋(吉雄)生徒主事補 老齡の母堂本年九月より病臥中の處十

一月十三日午前五時三十分麴町區富士見町の自宅に於て永眠せら

れたるにより職員厚誼會より金壹封を贈呈し弔悼せり

勅語奉讀式舉行

十月三十日 教育勅語御下賜記念日に就き、午前九時三十分よ

り 勅語奉讀式舉行、第一號鐘にて生徒一同大講堂に參集、第二號

鐘にて職員一同大講堂に參集し、一同起立して君ヶ代を二唱し、次

いで學校長の 教育勅語、教育者に賜はりたる 勅語奉讀、並に訓  
辭あり、右了りて退場せり。

本校設置記念式舉行

十一月四日午前十時より本校設置記念式を舉行せり、其の式次第  
左の如し。

一、午前十時第一號鐘にて生徒一同大講堂へ參集著席、

一、第二號鐘にて職員卒業生大講堂へ參集

一、學校長式辭

次に餘興に移る、

一、隅田川 清元志壽太夫連中

右了りて茶菓を呈す、

教 練 査 閱

學校特に體操科主要行事の一たる本年度教練査閱は畏くも歩兵第  
一旅團長の職に在らせらるる 朝香宮鳩彦王殿下査閱官として台臨  
あらせられ十一月二十四日東京帝室博物館構内廣場に於て實施せら  
る。

當日朝來曇天にして師走の北風落葉を卷揚げ寒氣稍々強かりしに  
不拘校長始め各課長各科主任並生徒主事其他關係掛長等臨場生徒亦  
終始熱心努力せる結果其成績一般に良好なる旨査閱官殿下の御講評  
ありたり。尙實施課目及當日分隊長以上の勤務に服せる生徒左記の  
如し。

課 目

本科第一學年 各個教練

本科第二學年 分隊教練

本科第三學年 小隊教練

圖畫師範科第一、二、三年 各個教練及小隊教練

各科第四學年 中隊教練

中隊長(漆四) 城倉可成

小隊長(塑四) 田中達三、(西四) 今村俊夫、(金四) 加藤正之、

(師三) 小島勇、(日三) 川崎雅、(塑三) 三枝惣太郎、(圖三)

小池岩太郎

分隊長(日四) 菅澤幸司、(木四) 古川順三、(西四) 山本日子士

良、(西四) 田村玄二郎、(圖四) 加藤清澄、(圖四) 秋山光喬、

(日三) 河部貞夫、(木三) 篠田弘、(西三) 上原之節、(西三)

高山世繼、(鑄三) 鹿取一男、(漆三) 金田諒三、(師三) 北野

熊雄、(師三) 一井増郎、(師三) 竹内博、(師三) 村上英一、

(師二) 濱田九一郎、(師二) 芦名芳夫、(日二) 井上迪彦、(西

二) 橋本正躬、(西二) 川田恒之輔、(西二) 江守龜男、(西二)

中久木康夫、(塑二) 吉田芳夫、(建二) 富田哲輔、(圖二) 福

永正一、(金二) 飯田正美、(鑄二) 畑正夫、(日一) 大島正司、

(日一) 菊澤榮一、(西一) 小田忠、(西一) 川端謹次、(西一)

松下義治、(西一) 大畑實、(塑一) 小田清助、(木一) 西出大

三、(建一) 沖坂左那衛、(圖一) 足立一郎、(金一) 津越久男、

(鑄一) 鈴木泰、(漆一) 増田正一、(師一) 石井壬子夫、(師

一) 佐竹正吾、

本校創立四十五周年記念展観

文庫課では毎年本校創立記念日に際し、陳列館本館階上に特別陳列をする事を例としてゐたが、本年は恰かも下村觀山筆岡倉天心先生像を寄贈されたので、之を本校創立記念の展観に際し出陳する事を最も意義あるものと考へ、之を中心として天心先生を偲ぶべき遺品と、觀山遺作の數點と、本校教官中物故された人々の作品少數とを併せて展観に供した。而して本展観を創立記念日「正式の記念日は十月四日——編者註」當日限りとする事は甚だ遺憾であるので、十一月四日より、同月十五日に至るまで之を一般に公開した。

岡倉天心肖像寫眞 一枚 本校藏

岡倉天心肖像寫眞 一枚 岡倉由三郎氏藏

岡倉天心書 漢詩 登慈雲寺偶感 一幅 岡倉由三郎氏藏

岡倉天心書 釣魚日記 一册 川合芳三郎氏藏

岡倉天心書 英詩並同翻譯 二面 六角注多良氏藏

岡倉天心書 漢詩 渭水偶感外一首 二枚 六角注多良氏藏

岡倉天心書 書簡 米山高麗子氏宛 一通 米山 辰夫氏藏

洗塵帖 一册 米山 辰夫氏藏

諸家彫刻匾額 一面 米山 辰夫氏藏

茶箱 岡倉天心遺愛 一具 米山 辰夫氏藏

辨當箱 岡倉天心遺愛 一箱 岡倉由三郎氏藏

文鎮 岡倉天心遺愛 一個 岡倉由三郎氏藏

烟草入 岡倉天心遺愛 一個 米山 辰夫氏藏

タゴール書 英詩 二枚 米山辰夫氏藏

下村觀山筆 天心先生像 一幅 本校藏

下村觀山筆 笏圖 一幅 下村 英時氏藏

下村觀山筆 木間の秋圖 二曲屏風一双 文部省藏

下村觀山筆 佛誕圖 一幅 本校藏

下村觀山筆 熊野觀花圖 一幅 本校藏

下村觀山筆 日蓮辻說法圖 一幅 本校藏

下村觀山筆 松圖 故岡倉基子氏所用羽織裏地 三枚 米山辰夫氏藏

下村觀山筆 小下繪寫生圖 一卷 下村英時氏藏

下村觀山筆 作畫構想覺書 一卷 下村英時氏藏

狩野芳崖筆 不動明王像 一幅 本校藏

橋本雅邦筆 松月圖 一幅 本校藏

川端玉章筆 山水圖 一幅 本校藏

山名貫義筆 養老孝子圖 一幅 本校藏

巨勢小石筆 秋野鹿圖 一幅 本校藏

天草神來筆 羽衣圖 一幅 本校藏

寺崎廣業筆 秋山雨後圖 一幅 深井英五氏藏

菱田春草筆 寡婦孤兒圖 一幅 本校藏

西郷孤月筆 朝鮮風俗圖 一幅 本校藏

學校近事 (三一—七) S・八・三・二三

昭和七年十一月三十日

東京美術學校雇ヲ命ス 文庫課圖書掛兼標本掛ヲ命ス

村内 政雄

鳩ヶ谷敏治

東京美術學校雇ヲ命ス 文庫課圖書掛兼標本掛ヲ命ス

依願解雇 雇 熊岡 本邦

依願免本官 内閣 教授 伯爵 平田 榮二

昭和八年一月十六日

依願解雇 雇 萩原 武人

同年同月十七日

依願解雇 雇 深田 敏子

學術研究ノ爲群馬縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事 助教 廣川松五郎

同年同月十九日 教授 藤島 武二

敍勳三等瑞寶章 賞勳局 教授 渡邊 啓三

敍勳六等瑞寶章 賞勳局 同年同月三十日 造幣局囑託 津田 信夫

造幣局ニ於テ募集スルニツケル貨幣模様圖案審査員ヲ命ス 大藏省 教授 和田 三造

造幣局ニ於テ募集スルニツケル貨幣模様圖案審査員ヲ囑託ス 大藏省

同年二月九日

同年二月九日

同年二月九日

同年二月九日

同年二月九日

同年二月九日



助教授 廣川松五郎

同 高村 豊周

學術研究ノ爲大阪府へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

同年同月十四日

生徒主事補 高橋 吉雄

事務打合ノ爲茨城縣下へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

同年同月十五日

除服出仕

雇 村瀬 健爾

同年同月十六日

助教授 廣川松五郎

學術研究ノ爲大阪府へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同年同月二十二日

教授 六角注多良

同 津田 信夫

學術研究ノ爲富山縣高岡市へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同年同月二十七日

教授兼 田邊 孝次

生徒主事

學術研究ノ爲石川縣及京都府へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

同年同月二十八日

助教授 小泉 勝爾

任東京美術學校教授 敎高等官六等 内閣

清水 平吉

本校體操授業ヲ囑託ス 敎務課敎務掛兼勤ヲ命ス

同年三月三日

除服出仕

雇 木村 周吉

○矢代〔幸雄〕教授 同教授はハーバード大學の招聘に應じて昨秋

渡米されたるが本年一月九日正式に講師任命の辭令を受けて二月

七日より講義を開始されたり 講義題目は『繪巻物形式論』にし

て之は一般的の公開講演にあらず同大學の正課として開講され

るものにして聽講者は大學美術部學生ラドクリッフ (Radcliff)

女子大學生の外多く大學卒業生敎授職員等の専門家にして五十名

を越え公開講演ならざる正課として東洋美術の講義に斯くの如き

盛況は豫想外なりと稱せらる 同地の新聞にもハーバード大學に

日本の學者が招聘されたる此の事を報じ日米關係複雑なる今日注

目を引き居るは喜ばしきことなり

○谷本〔千代雄〕書記 客年七月發病以來自宅に於て靜養中の處此

程中野區江古田東京市療養所に入院専ら療養に努めらるゝことゝ

なれり 仍て職員厚誼會より見舞品を贈呈せり

○萩原〔武人〕雇 敎務掛として勤務せられし處家事の都合上此程

退職山口縣へ歸郷せられたり 仍て職員厚誼會より記念品を贈呈

せり

○深田〔敏子〕雇 昭和二年以來文庫掛として勤務せられたる處客

年七月發病爾來療養に努められたるも依然として快癒に至らざる

故を以て此の程退職せられたるにより職員厚誼會より記念品を贈

呈し聊か年來の厚情を謝したり

○渡邊〔正実〕雇 本郷區駒込神明町三四〇番地へ轉居されたり

○加藤〔金美〕助手 王子區赤羽町一ノ二七九番地へ轉居されたり